



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月8日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名
 コード番号 4118 URL http://www.kaneka.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 角倉 護
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 鈴木 啓司 (TEL) 06-6226-5169

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	408,082	△2.2	24,570	△16.3	20,762	△19.2	12,952	△21.0
28年3月期第3四半期	417,204	0.8	29,360	75.1	25,692	47.6	16,401	63.3

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 17,102百万円(△15.9%) 28年3月期第3四半期 20,346百万円(△5.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	39.03	38.99
28年3月期第3四半期	49.15	49.11

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	598,304	316,997	50.3
28年3月期	577,251	308,722	50.6

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 300,746百万円 28年3月期 292,208百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	8.00	—	10.00	18.00
29年3月期	—	9.00	—		
29年3月期(予想)				9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	560,000	0.9	38,500	0.7	34,000	2.9	21,000	0.1	63.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	350,000,000株	28年3月期	350,000,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	17,903,979株	28年3月期	18,356,481株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	331,831,487株	28年3月期3Q	333,682,914株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は、平成29年2月8日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成28年4～12月、以下「当第3四半期」)の世界経済は、全体として力強さを欠く展開となりました。英国のEU離脱決定や米国のトランプ新大統領選出という想定外の出来事が世界経済・金融を大きく揺るがすなか、その影響が先進国や新興国・資源国の景気に波及し、減速基調となりました。わが国経済も、世界経済の減速や円高の影響から輸出が弱含み、個人消費も伸び悩みました。

このような状況のもと、当社グループの当第3四半期の業績は、新製品やスペシャリティの高い製品の拡販を進め全体として数量増を達成しましたが、円高の進行やエレクトロニクス市場の需要低迷の影響を受け、売上高は408,082百万円(前年同期比2.2%減)と減収になり、営業利益は24,570百万円(前年同期比16.3%減)と減益となりました。経常利益は20,762百万円(前年同期比19.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は12,952百万円(前年同期比21.0%減)となりました。

セグメント別では、売上高は、機能性樹脂事業、食品事業が増収、化成品事業、発泡樹脂製品事業、ライフサイエンス事業、エレクトロニクス事業、合成繊維、その他事業が減収となりました。営業利益は、化成品事業、食品事業が増益、機能性樹脂事業が前年同期並み、発泡樹脂製品事業、ライフサイエンス事業、エレクトロニクス事業、合成繊維、その他事業が減益となりました。

各セグメントの状況は次の通りです。

① 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、円高と原料価格下落の影響を受けて売上高が減少しましたが、アジア向け輸出の拡大により収益は改善しました。塩ビ系特殊樹脂は、塩ビペースト樹脂がアジア向けを中心に好調な販売となったほか、塩素化塩ビも米国及びアジア向けの販売が堅調に推移しました。か性ソーダは、国内需要の回復が遅れ低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は69,873百万円と前年同期と比べ8,298百万円(10.6%減)の減収となりましたが、営業利益は4,524百万円と前年同期と比べ1,032百万円(29.6%増)の増益となりました。

② 機能性樹脂事業

モディファイヤーは、非塩ビ用途向けなどの新用途の拡販が進み、国内・海外市場ともに販売数量が増加しました。変成シリコーンポリマーは、ユニークな品質特性が広く認知され、建築用途に加え工業用途の販売も拡大し、国内外全地域において販売数量が増加しました。マレーシアにおけるモディファイヤーの新系列増設工事(2017年3月稼働予定)および変成シリコーンポリマーの生産設備新設工事(2017年7月稼働予定)は順調に進捗し、稼働後はアジア市場の旺盛な需要に速やかに応えてまいります。また、2016年1月に連結子会社としたセメダイン株式会社と海外展開を中心にシナジーを発揮する様々な取組みを進めています。

以上の結果、当セグメントの売上高は79,930百万円と前年同期と比べ9,976百万円(14.3%増)の増収となり、営業利益は10,896百万円と前年同期並みとなりました。

③ 発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野における需要が低調に推移しました。押出法発泡ポリスチレンボードは、住宅関連市場の回復により販売が堅調に推移し、ビーズ法発泡ポリオレフィンには、自動車分野向けを中心にアジア市場での販売が拡大しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は49,086百万円と前年同期と比べ1,327百万円(2.6%減)の減収となり、営業利益は5,007百万円と前年同期と比べ143百万円(2.8%減)の減益となりました。

④ 食品事業

食品は、国内需要の伸び悩みと食の多様化が進行するなか、研究開発力を強化し、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売と製品ミックスの高付加価値化を進めています。当第3四半期は、夏場過ぎの天候不順や原料価格高騰の影響を受けましたが、新製品の継続的上市とサプライチェーン全体の強化・効率化を目指した事業構造改革が進み、収益性が改善しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は111,075百万円と前年同期と比べ1,905百万円(1.7%増)の増収となり、営業利益は3,512百万円と前年同期と比べ1,040百万円(42.1%増)の増益となりました。

⑤ ライフサイエンス事業

医療機器は、血液浄化事業の販売が低調に推移しました。一方、インターベンション事業は、国内市場では償還価格改定の影響を受けましたが、海外市場では他社との共同事業が拡大し販売が着実に増加するとともに、新たな提携先との取組みも実績化されています。医薬品は、APIやバイオロジクス分野における販売が順調に拡大しました。機能性食品素材は、最大市場である米国を中心に還元型コエンザイムQ10の販売数量が着実に増加し、日本でも機能性表示食品制度のスタートにより売上が拡大しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は42,090百万円と前年同期と比べ1,362百万円(3.1%減)の減収となり、営業利益は8,392百万円と前年同期と比べ245百万円(2.8%減)の減益となりました。

⑥ エレクトロニクス事業

超耐熱ポリイミドフィルム、超高温伝導グラファイトシートは、中国メーカーのスマートフォン高機能化が進み、新たな牽引役である高機能品を中心に販売が拡大しましたが、スマートフォン市場の全般的な回復遅れや円高の影響を受けました。太陽電池は、新製品の性能向上と美観が評価され、大手ハウスメーカー向けの販売数量が増加するとともに、事業構造改革が進み採算が改善しました。世界最高レベルの変換効率を有するヘテロ接合技術を用いた新製品や高性能品の販売拡大に一層注力するとともに、ネット・ゼロ・エネルギーハウスの実現に貢献するソリューションの提供に取り組んでおります。

以上の結果、当セグメントの売上高は26,612百万円と前年同期と比べ4,073百万円(13.3%減)の減収となり、1,300百万円の営業損失となりました。

⑦ 合成繊維、その他事業

合成繊維は、高付加価値品の拡販やコストダウンに努めましたが、円高の影響を強く受けました。また、全般的なアフリカ経済の低迷とアジア市場の回復遅れの影響を受けました。引き続き、研究開発による製品の一層の機能向上と、稼働したマレーシア工場の競争力を活かし、収益の改善を図ってまいります。

以上の結果、当セグメントの売上高は29,413百万円と前年同期と比べ5,942百万円(16.8%減)の減収となり、営業利益は8,906百万円と前年同期と比べ3,739百万円(29.6%減)の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末の総資産は、受取手形及び売掛金や投資有価証券の増加等により、前期末に比べ21,053百万円増の598,304百万円となりました。負債は、支払手形及び買掛金の増加等により12,778百万円増の281,306百万円となりました。また、純資産は、利益剰余金の増加等により8,275百万円増の316,997百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により37,709百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により28,606百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済による支出や配当金の支払額等により10,860百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は、41,120百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の世界経済については、米国新政権の誕生による影響や原油価格の急激な変動、欧州におけるEU離脱問題など先行き不透明な要素が多いものの、全体として景気の持ち直しが期待されます。わが国経済も、世界経済の回復を背景に緩やかに持ち直す見通しです。

当社グループの業績は、円高やスマートフォン市場の低迷などによる影響を強く受けましたが、第4四半期以降は、エレクトロニクス関連市場の需要増や食品事業における新製品の拡販、化成品および機能性樹脂事業における海外販売の拡大、医薬品分野での増販が期待できるなど、業績は全体として回復に転じる見通しです。製品の差別化力やコストダウンの更なる強化、新製品の寄与など事業構造改革の取り組みを一段と加速させ、収益の拡大に努めてまいります。

以上のことから、平成28年11月9日公表の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	43,447	41,819
受取手形及び売掛金	121,682	132,718
有価証券	110	110
商品及び製品	51,745	51,845
仕掛品	10,125	9,796
原材料及び貯蔵品	31,828	32,526
その他	15,113	16,117
貸倒引当金	△345	△349
流動資産合計	273,708	284,584
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	69,204	73,338
機械装置及び運搬具(純額)	88,753	95,633
その他(純額)	61,757	55,950
有形固定資産合計	219,715	224,921
無形固定資産		
のれん	4,123	3,582
その他	8,074	7,162
無形固定資産合計	12,197	10,744
投資その他の資産		
投資有価証券	55,602	63,347
その他	16,242	14,923
貸倒引当金	△215	△217
投資その他の資産合計	71,629	78,053
固定資産合計	303,542	313,720
資産合計	577,251	598,304

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	64,819	78,008
短期借入金	52,695	50,185
未払法人税等	3,708	2,525
引当金	134	10
その他	42,191	44,590
流動負債合計	163,550	175,321
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	53,773	54,532
引当金	303	308
退職給付に係る負債	36,667	36,642
その他	4,233	4,500
固定負債合計	104,978	105,985
負債合計	268,528	281,306
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	34,936	32,862
利益剰余金	234,377	240,991
自己株式	△15,558	△15,034
株主資本合計	286,801	291,867
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,450	22,812
繰延ヘッジ損益	△51	△80
為替換算調整勘定	△1,082	△4,263
退職給付に係る調整累計額	△10,909	△9,589
その他の包括利益累計額合計	5,406	8,878
新株予約権	228	267
非支配株主持分	16,285	15,984
純資産合計	308,722	316,997
負債純資産合計	577,251	598,304

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	417,204	408,082
売上原価	297,346	286,416
売上総利益	119,858	121,665
販売費及び一般管理費	90,497	97,095
営業利益	29,360	24,570
営業外収益		
受取配当金	1,189	1,469
投資有価証券売却益	70	480
持分法による投資利益	245	95
その他	532	681
営業外収益合計	2,038	2,727
営業外費用		
支払利息	873	1,020
固定資産除却損	2,417	2,107
為替差損	786	2,210
その他	1,629	1,196
営業外費用合計	5,706	6,535
経常利益	25,692	20,762
特別損失		
訴訟関連費用	947	594
特別損失合計	947	594
税金等調整前四半期純利益	24,745	20,168
法人税、住民税及び事業税	5,254	5,020
法人税等調整額	2,526	1,421
法人税等合計	7,781	6,442
四半期純利益	16,963	13,725
非支配株主に帰属する四半期純利益	562	772
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,401	12,952

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	16,963	13,725
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,630	5,502
繰延ヘッジ損益	40	△28
為替換算調整勘定	△1,456	△3,415
退職給付に係る調整額	174	1,319
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	△1
その他の包括利益合計	3,382	3,376
四半期包括利益	20,346	17,102
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,770	16,424
非支配株主に係る四半期包括利益	575	677

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	24,745	20,168
減価償却費	19,504	20,503
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	126	1,843
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	317	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	20	12
受取利息及び受取配当金	△1,230	△1,530
支払利息	873	1,020
持分法による投資損益(△は益)	△245	△95
固定資産処分損益(△は益)	494	526
売上債権の増減額(△は増加)	△3,962	△11,628
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,601	△1,256
仕入債務の増減額(△は減少)	8,434	13,578
その他	5,572	663
小計	51,050	43,805
利息及び配当金の受取額	1,274	1,529
利息の支払額	△758	△891
法人税等の支払額	△5,004	△6,734
営業活動によるキャッシュ・フロー	46,561	37,709
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△29,538	△26,893
有形固定資産の売却による収入	375	55
無形固定資産の取得による支出	△2,135	△993
投資有価証券の取得による支出	△63	△56
投資有価証券の売却による収入	365	511
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△102
貸付けによる支出	△1,386	△363
貸付金の回収による収入	824	187
その他	△963	△952
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,522	△28,606
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,666	△2,128
長期借入れによる収入	13,140	4,911
長期借入金の返済による支出	△7,950	△4,502
リース債務の返済による支出	△73	△119
自己株式の取得による支出	△2,769	△7
自己株式の売却による収入	0	346
非支配株主からの払込みによる収入	-	53
配当金の支払額	△5,344	△6,328
非支配株主への配当金の支払額	△152	△398
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△11	△2,686
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,494	△10,860
現金及び現金同等物に係る換算差額	△121	△283
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	12,422	△2,041
現金及び現金同等物の期首残高	28,020	43,161
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,443	41,120

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	78,172	69,954	50,413	109,170	43,452	30,685	35,356	417,204	—	417,204
セグメント間の 内部売上高又は振替高	704	526	40	5	23	188	952	2,441	△2,441	—
計	78,876	70,480	50,454	109,176	43,475	30,874	36,308	419,646	△2,441	417,204
セグメント利益	3,491	10,974	5,151	2,472	8,638	552	12,645	43,927	△14,566	29,360

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	43,927
セグメント間取引消去	△1
全社費用(注)	△14,556
その他の調整額	△8
四半期連結損益計算書の営業利益	29,360

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	69,873	79,930	49,086	111,075	42,090	26,612	29,413	408,082	—	408,082
セグメント間の 内部売上高又は振替高	798	698	69	4	25	165	1,084	2,846	△2,846	—
計	70,672	80,628	49,156	111,080	42,115	26,778	30,498	410,929	△2,846	408,082
セグメント利益 又は損失 (△)	4,524	10,896	5,007	3,512	8,392	△1,300	8,906	39,940	△15,370	24,570

(注) セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	39,940
セグメント間取引消去	△7
全社費用(注)	△15,352
その他の調整額	△10
四半期連結損益計算書の営業利益	24,570

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。